

フロンティアスクール中間報告書

都道府県名	新潟県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	柏崎市立第二中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	2	11	21
生徒数	91	97	97	3	288	

研究の概要

1. 研究主題

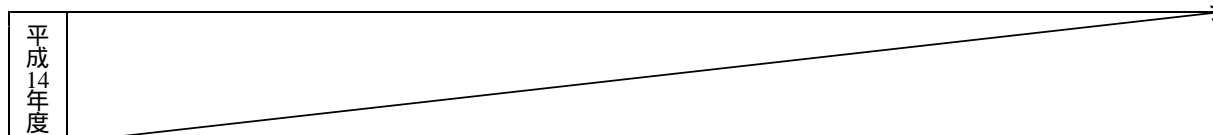
自らの課題に主体的に取り組み，学力の向上を目指す生徒への支援
～習熟度別少人数指導による個々の生徒への効果的な支援を通して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

1・2・3年生 数学
生徒の学力の状況に差が出やすい教科であり，学校として当該教科に関する習熟度別少人数指導の研究実績があるため。
1・2・3年生 英語
習熟度別少人数指導の導入により，個別指導を中心に個々の生徒の学習活動量を増加させることを可能にするため。

(2) 年次ごとの計画



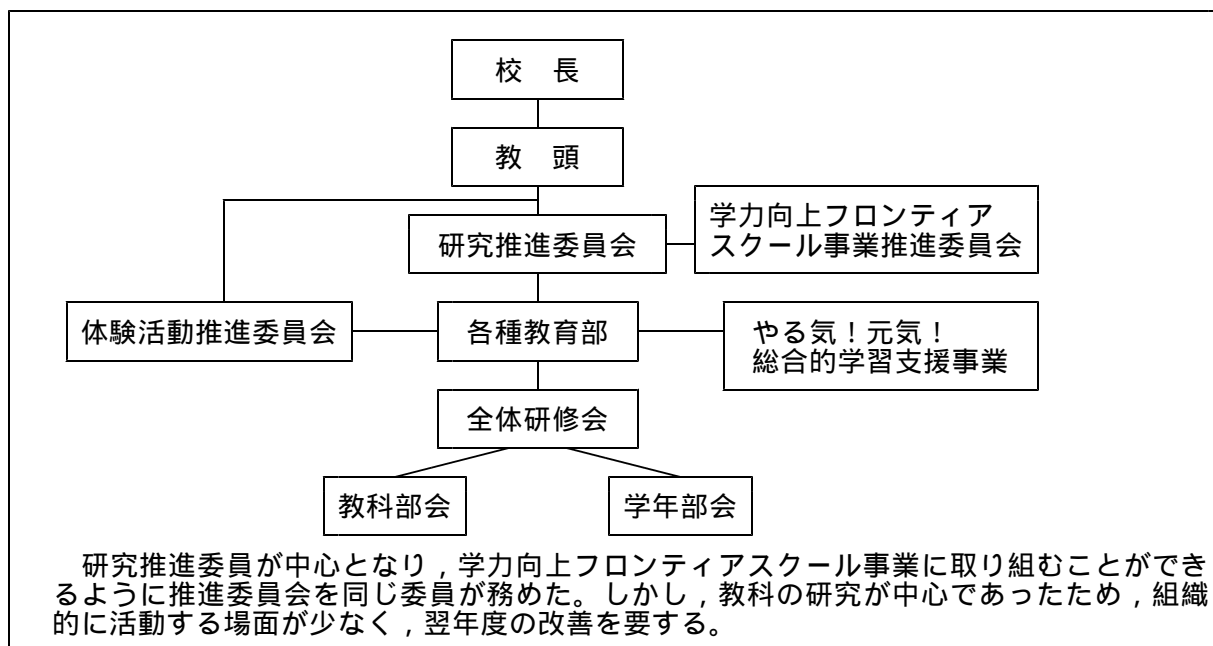
平成15年度

テーマ
日常的・継続的な習熟度別少人数指導の実践と課題解決
研究の見通し
標準的な学力検査を用いた学力分析を行い，学力向上を目指して習熟度別少人数指導における指導法と評価の研究を行う。また研究連携校との研修を実施しながら，地域に向けた情報発信に取り組む。
研究の内容・方法
学力検査の分析を詳細に行い，研究連携校と合同研修を実施した。年間を通じて実施している習熟度別少人数指導において，より効果的な指導法を求めて研究を進める。

平成16年度

テーマ
全職員で取り組むフロンティアスクール事業
～学力向上・家庭学習習慣・心の教育～
研究の見通し
全職員が本事業に取り組めるように，「習熟度別指導・少人数指導」「学級活動」「心の教育」の3グループのいずれかに所属し，研究を推進する。また習熟度別指導過程の二中プランの改善・整理と実践の蓄積を図る。
研究の内容・方法
上記の3グループは，それぞれが「習熟度別指導過程の二中プランの作成」「家庭学習習慣の定着のための方策」「道徳における，学力向上に関わる内容項目の指導方法の工夫」を中心に研究を進める。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

ア 学力の向上

本校生徒全体の学力は標準的な学力調査等の結果から向上していることが明らかになった。また習熟度別指導・少人数指導を実施していない教科にも波及効果があった。

【学校全体のNRTの偏差値平均の推移】

	H10.4	H11.4	H12.4	H13.4	H14.4	H15.4
平均	49.7	48.7	49.9	50.9	51.6	52.7
国語	52.8	50.2	50.7	51.5	52.0	52.6
社会	47.9	48.1	48.7	49.9	50.4	52.1
数学	48.7	47.9	49.2	50.3	52.3	53.5
理科	49.8	49.5	50.8	51.9	52.5	52.6
英語	48.0	45.6	49.7	49.3	50.3	52.5

イ 少人数指導・習熟度別指導の定着

生徒・保護者・教師にとって好意的に受け取られており，理解と協力を得ている。

生徒の評価（H15.7、H15.12実施）

項目「授業がよくわかる」（単位：％）

	数学		英語	
	一学期末	二学期末	一学期末	二学期末
そう思う	38.30	41.54	29.56	38.36
少しそう思う	46.89	44.31	49.48	47.93
思わない	14.81	14.15	20.96	13.71

保護者の評価（H15.7、H15.12実施）

項目(1)わかりやすい授業が展開されている。

項目(2)学力向上のための方策が施されている。

項目(3)子どもたちの家庭学習の様子に満足している。

項目(4)子どもたちに「正しい心」が育ってきている。

項目(5)学校として「心の教育」にしっかり取り組んでいる。（単位：％）

	項目(1)	項目(2)	項目(3)	項目(4)	項目(5)
よくあてはまる	23.36	32.86	8.51	22.86	27.14
まあまああてはまる	62.77	57.14	43.26	62.14	61.43
あまりあてはまらない	10.95	9.29	27.66	12.14	10.71
あてはまらない	2.92	0.71	20.57	2.86	0.71

ウ 習熟度別指導過程における二中プラン

(小)単元の習熟度別指導過程の独自のプラン作りに着手した。

エ 学力向上を目指す評価の改善

絶対評価をどう学力向上につなげるか、職員の共通理解が進み、評価のあり方に改善が見られた。

2. 今後の課題

研究組織の再編
 習熟度別少人数指導に関わる教科担当だけでなく、全員が研究に関わり推進していく。
 学力向上のために、生徒会による「家庭学習習慣の定着」運動の実施や道徳教育において「向上心、真理の追究、困難の克服」といった内容項目の指導方法を工夫することで、学力と心のバランスのとれた生徒の育成を目指す。

学力把握のための学校としての取組

教研式標準学力検査・中教研学習指導改善調査
 毎年度初めに、生徒の学力実態を把握するため、国語・社会・数学・理科・英語の教科で実施している。
 知能検査
 1年生と3年生を対象として年度初めに実施している。
 学習適応性検査
 1学期に生徒の学習スタイルや学習に対する意識を調査するために全生徒を対象に実施した。2月には講師を招き、得た情報を日常の指導に生かす方法を研修する。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

中間発表会の実施
 平成16年1月30日(金)13:45～16:50 本校を会場に地区内の小中学校と中越地区内のFS校を対象に授業を公開し、研究の全体説明後、数学科と英語科の協議会を実施した。
 研究発表時の資料を本校のホームページに掲載し、公開している。
 フロンティアティーチャーは本年度柏崎市教育委員会主催の第36回教育研究論文の募集に対し「習熟度別少人数指導が生徒の学習意欲に及ぼす影響」という本研究の内容と関連の深い研究論文を応募し、入選した。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無